

バクーの石油、いま・むかし

「アゼルバイジャンは知らなくてもバクー油田は聞いたことがある」というほど、バクーの石油生産は世界的に有名です。今回は、19世紀末の石油生産ゆかりの施設、現在も採掘中の市内の油井、そして現在の石油生産と今後の見通しについて紹介いたします。

1. ノーベルの館(Villa Petrolea)

1879 年に「ノーベル兄弟社」を設立後バクーの石油生産で独占的地位を占めたノーベル一族により採掘現場の真ん中に建てられた邸宅兼事務所の建物が、現在一般に開放されています。居室や書斎、社長室の調度品が保存・展示されており、当時の石油生産に関する貴重な資料や写真を見ることができます。



(Villa Petrolea インスタグラムから)

2. 国立歴史博物館

市内中心部にあるこの博物館は、19世紀末の石油大富豪(ムスリム初の女学校創設など慈善家としても有名)ゼイナラブディン・タギエフの邸宅として、ロシア帝国出身の建築家ゴスラフスキにより建てられました。邸宅は1920年ボルシェビキより接收された後、歴史博物館として使用されることとなりました。館内は歴史的工芸品等の展示スペースとタギエフ邸の豪華絢爛な居室を復元したスペースから成っています。同館と日本との交流は1962年から続いており、当時日本・ソ連友好協会を始め多くの日本人が来訪し、彼らからの贈呈品(20点以上)が大切に保管されています。



(国立歴史博物館Instagramから)

3. バクー市内の油井

バクー市内では現在もなお数多くの油井で石油が採掘されています。中心部の海岸公園では写真のようにカラフルに彩色されたポンプジャックが稼働する様子を眺めることができます。バクーが昔も今も油田の上にあることが実感される光景です。



(当館撮影)

4. 現在の石油生産

現在、アゼルバイジャンの石油生産の中心は、カスピ海のバクー沖合にある大型油田に移っています。今後も海底油田を中心に開発・生産が続けられる見通しですが、一方でバクー近郊の陸上でも従来の油田よりもさらに深い 3～4 千メートルの油層から新たに採掘される可能性もあり、我が国から JOGMEC(独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構)が地質構造調査を行うなど、協力が進められています。

(以上)